

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



立教百八十九年
明けましておめでとうございます

昨年は年祭活動三年目の締めくくりの年を、それぞれの持ち場立場で懸命におつとめくださり、誠にありがとうございました。

本年はいよいよ教祖百四十年祭が一月二十六日につとめられます。年祭当日まで勇んでつとめ切ると同時に、次なる塚へ向かつての歩みを、次なる成人を目指す心定めと共に歩みだして頂きたいと思えます。また本年は年祭の年として、「目的を明確にしたおちばがえり」の実践を通して、教祖にお喜び頂ける一年にしたいと考えていますので、よろしくお願い致します。

笠岡大教会長

上原 明 勇

教祖百四十年祭 笠岡大教会活動方針

つながろう、おやさまのお心に。
つなげよう、信仰の喜びを。

活動
目標

ひながたを学び、そのお心を実践しよう。

実践
項目

毎日、喜び・感謝を声に出そう



立教189年
1月号

立教188年 年末大掃除

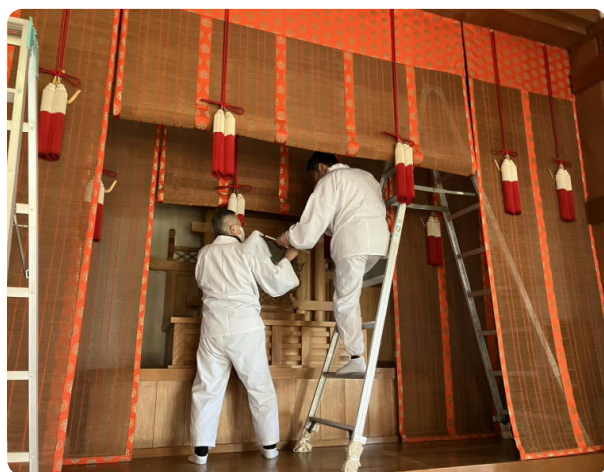
管理部

管理部(虫明立生)は12月22日午前9時から教会長、用木、信者ら60人余りで恒例の年末大掃除を行った。

午前8時半から神殿内の鳴り物・結界・賽銭箱などを廊下に搬出、また倉庫から脚立、ビデ、シート、長はたきなど神殿内に搬入して、午前9時から大教会長様のお手に合わせて親神様・教祖・霊様を礼拝、後それぞれの部署に分かれて大教会内の年末大掃除が始まった。

男性は親神様のお鏡の滑りを調整した後に、会長様が親神様の社の屋根の掃除を始めると同時に並行して他の人たちは教祖殿、祖霊殿の社・神床に取り掛かった、更に白衣を付けた人たちで上段、中段と順番にブローアをかけ水拭き・空拭きと作業を進め、仕上げに参拝場を水拭き・空拭きと2人1組が前後で行い、同時に廊下にビデを移動して鴨居の上部を同じ作業で行った。

また婦人会は神殿内の部署によって取り分けられる雑巾の細目手配を初め、他の多くの人たちは教会内の各部



屋の清掃、トイレ掃除、窓拭き、食堂ひのきしんとそれぞれの持ち場で勇んでつとめた。



でつとめた。正午頃にはだいたいの作業を終え道

それぞれの持ち場で勇んでひのきしん

具の片付けも終えたあと、神殿周辺に居合わせた人たちが大教会長様のお手に合わせて三殿を礼拝し今年の年末大掃除は無事終了、それぞれに昼食を頂いて解散した。

1年間、大教会の管理の上にお力添えを頂き誠に有難うございました。教祖140年祭の年も変わらずお心寄せ下さいます様、何卒よろしくお願い申し上げます。

恒例のお餅つき

ひのきしん実施

詰所掛

昨年12月27日、詰所で恒例のお餅つきひのきしんが行われました。

前日の本部祭典終了後、14時頃から精米洗いや、餅つきで使用する物品の準備を行いました。

当日27日は、朝7時から11時頃まで、30人ほどでお餅つきひのきしんを行わせて頂きました。

寒い中ではありましたが、お互いに声を掛け合い、陽気に勇んで、最後まで怪我なくつとめさせて頂くことができました。

ひのきしん終了後には、つきたての



心のこもったお鏡



息を合わせて



前日の餅米洗



餅揉師範による仕上げ



ベテランと新米

お餅と温かい豚汁を皆で頂きました。
教祖140年祭の残り期間
も、つきたてのお餅のように心を一つにし、粘り強く、最後まで勤めさせて頂きたいものです。
(木津和分教会 丸山智旬)

☞ 詰所からのお願い

詰所での宿泊・喫食について

- ・詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、2日前までには、必ず詰所へご連絡ください。
- ・食事をしない(宿泊のみの)場合でも、2日前には申し込みをして下さるようお願い致します。



(編集掛 岡崎)

青年会笠岡分会(瀬藤大喜は、大教会での伏せ込みひのきしんとして、1月11日午前9時より、大教会敷地内の草刈り・清掃などを行った。
これは、11月23日(勤労感謝の日)に開催される笠岡分会初のご臨席総会に向け、月に一度行うことになったもので、毎月第1または第2日曜日に行われる。
次回は2月1日(日)、笠岡詰所で布団干し・片付け等を予定している。

大教会伏せ込み

ひのきしん実施

青年会

教祖百四十年祭 学生 おぢばがえり 大会 2026. 3.27~28

おぢばに集まれ

- 参加対象** 新中3以上の学生
- 参加費** 6000円 (現地参加4000円)
模擬店チケット代込
- 持ち物** お泊まりセット・はっぴ
筆記具・常備薬・席札(別席を運ぶ人)
保険証(コピー可)・折りたたみ傘
- 申し込み方法** QRコードから参加フォームへ
または笠岡学生担当委員会上原繁次まで

申し込みは
こちら

笠岡学生担当委員会

3月27日

8:15 笠岡大教会集合・
出発
12:30 天理着/昼食/参拝
ゲームラリー/脱出ゲーム/
前夜祭/笠岡詰所泊

3月28日

10:00 式典
12:00 直属アワー
15:45 天理発
19:45 笠岡大教会着

十二月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様の親心一杯の御守護とお導きを頂いて日々は結構に恙なく生活させて頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 気が付けば教祖百四十年祭に向かう三年千日と仕切つての年祭活動締めくくりの年も 早やあと十日を残すのみとなりました 私共は朝夕に御礼申し上げると共に届かぬながらもたすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は 本年納めの月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝の心も一人に 明るく陽氣に勇んで座りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には寒さ忙しさも厭わず今日の日を楽しみに寄り集いました道の子ども達が 相共に勇んでお歌を唱和する真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて年が改まれば いよいよ教祖百四十年祭でございます 教祖にお喜び頂けるよう 心明るく晴れやかな年祭を迎えられるよう その日までそれぞれに 定めた心定め の完遂を 目指して つとめ 切らせて 頂く 所存でございます

何卒親神様には 年の瀬にあたり 新たな年が教祖百四十年祭にふさわしい
年となるよう成人を誓う皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たす
けの上に尚も自由の御守護を賜り お望み下さる陽気ぐらしの世の状が一日
も早く実現しますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百八十八年十二月月次祭 祭典役割表

指 図 方	賛 者	
	上 谷 内 秀 自	赤 木 素 志

二月講話
世話人・板倉先生

役割		区分		地 方			おつとめてをどり			笛			ちゃんぽん			拍子木			太鼓			すりがね			小鼓			琴			三味線			胡弓																															
座りづとめ				今川昌彦	上原浩	佐藤真孝	大教会長様	前会長様	上原繁道	大教会奥様	前奥様	田中ますみ	門脇元教	中村剛	佐藤道孝	三代温生	吉岡壽	浅野明教	上原順子	山野なつ	三島照美	前 半				谷内伸自	森本忠善	杉原善朗	岡崎真一	中村道徳	虫明立生	谷内美知子	中村初美	上原千枝子	岡崎治喜	田林久嗣	高木昭祥	中村剛史	三代温生	岡田誠	門脇加津	吉岡八恵	内海安子	後 半				中島誠治	山野弘実	上原繁次	上原志郎	横山逸郎	浅野明教	武内正美	横山小智榮	室悦子	田中隆之	赤木素志	谷内秀自	山田敏教	岡崎真一	内海史郎	山野なつ	田中つかさ	高木孝子

大教会だより

第二〇二二期修養料

自 立教188年10月1日
至 立教188年12月27日

*教養掛(主)主任、(副)副主任

一ヶ月目 ⑤ 吉岡 誠一郎

(大教会役員)

興明分教会長

副掛谷 善樹

(福南分教会長)

二ヶ月目 ⑤ 上原 繁次

(大教会准役員)

陶山分教会長

副仙田 公男

(天場山分教会長)

三ヶ月目 ⑤ 森 本 忠 善

(大教会役員)

海松ヶ岡分教会長

副藤 井 保 人

(福東分教会長)

*修了者

河 佐 佐 藤 遙 叶

◎立教189年春季大祭参拝

*印は2月

笠岡講社 前 会 長 様

福山	岡山	田中	武内	中島	今川	大教会	上原	陽備	摩耶	金浦	興明	ひろさと	陶山	芳井	海松ヶ岡	東悠	吸江	照陽	輝美濃	新山邑	皆部	明石市	上中	府中市	東城	服部	島中	驛家
真一	隆美	正隆	誠治	昌彦	昌彦	隆之	繁道	志郎	真一	繁道	繁道	真一	真一	真一	真一	真一	真一	真一	真一	真一	真一	真一	真一	真一	真一	真一	真一	真一

計 報

葦陽	湯田	備中	神昭	美之郷	錦備	神免
大教会	上原	*上原	上原	門脇	今川	中島
長様	志郎	繁道	繁道	元教	昌彦	誠治

上原澄雄さん

大教会幹部承事

1月3日出直されました。

享年 97才



昨年11月毎年受けている健康診断の結果が送られてきた。例年同様、血液検査の欄は異常値を示す赤文字が並んでおり、中でも血糖値とヘモグロビンA1cの数値は昨年よりかなり高くなっていた。気はすまなかったが看護師をしている信者さん

に半ば怒られる様に病院に行けと言われ、しぶしぶ受診する事となった。結果は立派な糖尿病。その日から薬の服用と食事制限をせざるを得ない事となった。そうなるって初めて今までの自分の食生活や運動不足を後悔した。今まで何度もダイエットは試みてきた。決して高い目標体重を決め、達成すると気が緩みリバウンドしてしまふ。それを何度もくり返し今回の診断に至ってしまった。自ら始めるダイエットでは無く、半ば強制的に食事制限をせねばならぬ事となったのである。

私の場合、これまでの教祖年祭活動はこれに似ている気がする。年祭に向かって決して高い活動目標を定めて歩んでも、年祭を終えると大した事も出来てないのにやり切った感を出して完全に脱力してしまう。これでは次の年祭を迎える時には成人を重ねるところかマイナスからのスタートとなってしまう。あと数日で教祖140年祭の日を迎える。ひとつの成人の塚としてこの日を晴れやかな気持ちで迎えさせて頂き、今回こそは、その後の通り方を教祖にお誓いして、次の塚に向かって歩み始めたいと思う。

(や)